石渡家触廻状

p1

戸田日向守殿御達

百姓之儀は麁末服を着し
髪も藁を以つかね候事
古来之風儀ニ候処近来
奢ニ長し身分不相応之
品着用いたし髪も油
元結を用ひ候のみならす
流行之風俗を学ひ其外
雨具も簑笠のみを
用ひ候事ニ候処当時傘
合羽を用ひ其余之儀

p3

万端是に準し無益之
費多く先祖持来候
田畑も人手ニ渡候儀
歎ケ敷事候一躰百姓にて
余業ニ酒食売いたし

p4

候類又は湯屋髪結床等
有之候儀畢竟近年之
儀ニて若もの共自然
よからぬ道ニ携柔弱
且放埒之基ニ候間弥古代
之風儀忘却不致物毎

---

p5

質素ニいたし農業相励
候儀肝要ニ候且先達て
菱垣廻船積問屋共
其外渚諸株仲間組合
一統停止之旨被
仰出御府内ニおいて

p6

同商売何軒ニても相
始させ手広ニ相成候
ニ付自然在方江も押移
候哉ニ相聞候御府内町々と
在方と一様ニ存し候は
心得違ニて候百姓共専ら
耕作ニ力を用へき身分
ニて余業江移町人之

p7

商売を始候儀は決て
不相成事ニて
一、近年男女共作奉公人
少く自然高給ニ相成殊ニ
機織下女と唱候もの
別て過分之給金を取候由
是又余業ニ走候故之儀

p8

本末取失ひ候事共ニ候
元来百姓共は商向

当座之利潤を以　営（イトなみ）　候
町人共□は各別之儀ニ候条
是等之儀能々　辯別（べんべツ）
いたし一途ニ農業精
出銘々持傳候田畑ニ不離
p９
様専一ニ可心懸候
一、　勘当久離帳外之儀
一躰不軽儀ニ候故右躰
親族之ちなみを絶候　＊よしみ・ゆかり
程之もの出来候は兼て
おしへ方不宜故之事ニ候
倅又は左人等有之ものハ勿論
p１０
村役人共一同其段厚
相心得不実之儀
無之様常々異見等差
加一人たり共其所人別不相
減様取計可申儀肝要ニ候
右之趣堅可相守若等
閑ニ心得候もの於有之は
p１１
可及沙汰条違失無之様
御料は御代官私領は領主
地頭より可被相触候
右之趣被　仰付
候間可被得其意候
九月

石渡家触廻状

p１２
荏田村
此書付ケ急御用之儀申遣間
宿村継ヲ以早々継送り尤厚木厚木
村より先ニ継筋難分間同村は
相糺順路宜継送り武州池辺村江
可被相届候以上
評定所出役
論所地改
鈴木幸一郎
柴田顕平
大磯宿
平塚宿
田村
厚木村
これより先々村々
御役人中

石渡家触廻状

p13
尋儀有之間一同早々
罷出可相届若於不参は
可為曲事もの也

寅二月十九日　能登

武州都筑郡
池邉村
荏田村
役人共之内
壱両人ツヽ
右
名主
組頭

石渡家触廻状

p21
右大将様御事
今夕
上様と奉称候事

七月廿三日

右御書付之趣村々致承知
村々令印形早々順達留村より
可相戻候以上

増上寺
寅七月廿四日　代官所
新古領
村々

---

p22
公方様御遺骸
八月四日
午上刻　御出棺
酉上刻　御葬送

右之通被
仰出候間諸事相慎火之元
別て入念来月三日四日両日
他行
差扣可申候此段小前江
不洩様可申渡候右村々致
承知村下致印形早々相廻し
留村より可相返候以上

増上寺
代官所
寅七月廿八日

石渡家触廻状

p23
別紙之通御書付出候間為心得相達候条

組合村々早々申通村役人宅前等へ被出
置可申候虚無僧之儀ニ付ては是迄品々
如何之風聞も有之所ニ寄留場抔と
語候棒杭宿村外れ傍示杭一同建有之も
相見何等子細ニて建置候哉今般御書付之
表ニては右様之儀は有之間敷儀ニ候間
何れも御書付ニ不振様宿役人勤厚相心得
流弊ニ候半様取計いたす間敷候廻状早々
順遣りより中山誠一郎方へ可相返候以上
関東御取締出役
安原□作河合一平斎藤畝四郎
大熊太助吉僖平次太田源介
駒崎静助渡辺□十郎
申四月
廿七日　中山誠一郎
壱二番
品川宿中目黒村上小田中村東大先村川崎宿
神奈川保土ヶ谷六浦
p２４
右寄場役人
大小総代中
右之通御廻状を以被
仰渡候間則日うつし相廻シ申候間
御披見之上早々御順廻文御付分
御序之節御返し可被下候以上
上小田中村

申四月廿九日　名主
｜｜｜
百姓
｜｜｜
右村々
御名主中様
p２５
虚無僧共修行之躰ニてねたりケ間敷儀申進候者之
義ニ付安永三午年相触候趣も有之候處近年宗風猥ニ
相成不法狼藉之者多候ニ付今般取調之上両役寺番所ニ
おいて形を忍候子細承糺候者之外一宗寺院ニては
入宗いたし僧侶人別ニ不相成者弟子ニ致間敷尤弟子
取いたし候節武家勤仕之ものを入宗証人相立可申
元来普□禅宗と唱臨済之支流故専ら禅風を相守
惑之□家或は身元難顕抔ト唱候筋無之向後
真実之虚無僧のみニいたし宗縁助吹等之名目一切
相立修行先之儀も都て諸宗僧侶同様志次第之施物を
請相対を以穏便ニ止宿等いたし御用向抔と唱或は
ねたりケ間敷義等いたす間敷旨一宗之者とも被申渡候間
若此上不法之儀者有之候ハヽ其所ニて差押早々其筋□
可訴出候
右之趣御料私領寺社領迄不洩様可被相触候
壱番目

石渡家触廻状

p26
右御書付之趣村々致
承知村下令印形此廻状
刻付ニて早々相廻留村より
可相戻候以上
増上寺
代官所
丑十一月廿二日
申下刻出ス
新古領
村々

石渡家触廻状
p27
上様御事
宣下御当日より
公方様と可奉称候
右之通可被相触候
十一月
別紙御書付之趣
太田摂津守殿より
御達有之候間可被得
其意候尤来廿三日
将軍
宣下御規式有之候ニ付
諸事相慎別て火之元
可被入念候以上
十一月廿一日　役所
代官所
（了）